

## 第2回流山市立常盤松中学校区学校運営協議会 議事録

2024.01.30 火 午後 2:30

会場: 流山市立八木北小学校

出席者: 流山高校校長豊野(会長)  
八木北地区社会福祉協議会会長龍田  
東初石3丁目自治会長嶋田  
地域協働本部高木  
八木北小PTA会長浅子  
常盤松中学校校長佐藤

主任児童委員中村(副会長)  
流山ゴーヤクラブ名誉会長松島  
地域協働本部西尾  
民生委員・児童委員武藤  
常盤松中PTA会長伊藤  
八木北小学校校長橋本

### 1. 学校評価アンケートについて

小学校:

- ◇日頃から地域、保護者の皆様に協力・連携いただいている、かがやき学習、こども祭りなどが高い評価と繋がっている。
- ◇学校だけの声かけ、教育は難しいところがある、地域、家庭と共有・連携・情報発信をしながら進めていきたい。

中学校:

- ◇評価が低いものについて…各家庭での考えや、視点があるので、学校の目指すところを理解していただく努力が足りない
- ◇学校の目指すところを、どう理解してもらうか、HP、おたよりは実施しているが、+αの取り組み方を教えていただけるとありがたい。
- ◇学校教育目標に、職員の念願する子供たちの像として、自己肯定感の向上が大切である。その取り組みをどうしたら良いか。  
そのうちの1つに、挨拶。

### 2. 協議

— あいさつについて —

- ◇見守りの時、小学生は、ほとんどが元気に挨拶している。中学校は半分程度である。  
機会あるごとに、学校で指導してほしい。
- ◇前回の会議後、先生方ご指導くださったのか、小学生も中学生も挨拶は活発になってきた。
- ◇自治会の問題がある。美田自治会は、来年、会長方針に挨拶励行を取り上げるよう指示している。  
学校と地域と一緒に、運動を進めていくのがベスト。
- ◇中学校の先生方からみた、課題はなにか。
- ◇指示をされたことだけではなく、そこから先の自ら行動する力が少し弱い。自己肯定感の低い部分がある。
- ◇中学校は、それぞれ活躍する場所が分散されていく、そこを可視化することが大切である。
- ◇自己肯定感は、高校でも問題になっている。自立、指示された以上のことがなかなかできないのは、これから世の中に出て困ってしまう。どうすれば子供たちに自立心をつけさせられるか。

— 連携について —

- ◇児童との昔遊び、自治会広報紙への掲載などで連携を図ったことは、素晴らしい試み。今後も続けていくことで、いい方向に進むのでは。
- ◇色々な立場、年齢、性別の人と、日常的に関わることが大事である。
- ◇コミュニティスクールは、色々な立場の人が集まる中で課題を明確にし、それに対して自分たちは何ができるのを議論していく場。
- ◇地域と学校を結ぶ形で、繋がっていくことが大事。その手伝いをしたい。

— 学校運営協議会の次年度の方向性について —

- ◇「子供たちの安心・安全」交通安全、防犯、いじめなど色々あるが、子供たちが安心・安全に学校に通える、過ごせるというところをテーマとして提案する。
- ◇中学校は、スマホの所有率が上がり、いじめや、人間関係のなどのトラブルが増える。子供のアンケートの中でも不安定さが数字に出ている。
- ◇子供たちの安心、安全。日常的な部分で、どう協力できるか。  
小学校は、見守り。中学校は、ネットの危険性。これは地域で何かできるかと言うと、難しい。危険性を教えつつ、小学校から、顔を見て話すコミュニケーションの仕方を培うことで、ネットを持った時でも人間関係を築けるような成長の仕方を促していけたらいい。
- ◇地域は、とにかく登下校の支援で手いっぱいである。万全の手を打って活動しているが、放課後の安心・安全までは面倒見きれない。
- ◇地域との連携ということで、八木北小学校に高齢者のふれあい給食会を再開してほしい。
- ◇今できていることは、現状維持。意見を踏まえて、次年度の具体的なアクションを決めていけばいい。  
足りない部分は、そのままなのか、どう改善していくのか。
- ◇ここで課題を明確にする必要はない。安心、安全に注目して、次年度、そこにどう協力できるかを話し合うべきである。
- ◇見守りのおかげで、不審者情報も少ない。  
どうして不審者が出ないのか、良い特徴の要因を掘り下げる場であってもいい。
- ◇次年度は「子供たちの安心・安全」に向けて、それぞれの課題を持ち、皆様から意見いただく形で進めていく。